

1. 科目名 (単位数)	社会言語学 (2単位)	3. 科目番号	EIJP2144						
2. 授業担当教員	野口 芙美								
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表等	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	社会言語学とは、社会の中で言語がどのように使用されているかに関し理解を深める学問である。具体的には社会の中の性差、地域差、世代差などによる言語の運用について日本語を対象にしながら学んでいく。すなわち本講義は、日本語教育に必要な日本語の運用規則を理解するとともに、言語教育に携わる上での言語観を養うための基礎的科目といえる。日本語母語話者が無意識に行っている言語活動を「社会」という観点から見つめ直すことで、日本語の多様性および日本語の運用規則を理解する。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解する。 2. 日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解する。 3. 日本社会において日本語の会話構造を理解する。 4. 日本語教育における社会言語学の意義について理解する。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業はペアワークやグループワークを行いながら進める。教科書の指定ページを読み、授業前にスプレッドシートに印象に残ったこと、疑問点などを記入しておくこと（事前課題）。授業後は授業の感想・コメント、質問をスプレッドシートに記入すること（事後課題）。 2. 授業内で扱った内容から1つテーマを選び、分析を行う。第9回で研究テーマ、研究計画を発表し、第14回で研究結果を発表する。発表時の議論、フィードバックを踏まえ、研究成果をレポートにまとめて提出する。 								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】石黒圭著『日本語は「空気」が決める－社会言語学入門』光文社新書、2013</p> <p>【参考書】授業内で適宜紹介する。</p>								
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解できたか。 2. 日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解できたか。 3. 日本社会において位相による日本語の運用規則を理解できたか。 4. 日本語教育における社会言語学の意義について理解できたか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業ごとの提出物</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			授業への参加態度	30%	授業ごとの提出物	30%	期末レポート	40%
授業への参加態度	30%								
授業ごとの提出物	30%								
期末レポート	40%								
12. 受講生への メッセージ	日本語は実にバリエーション豊かな言語である。「依頼」一つをとっても依頼内容や相手によってその表現は異なるし、一つの表現でも使用する場面によって話し手の意図や相手に与える印象が変わることもある。また、「役割語」と呼ばれる小説やアニメの登場人物独特の日本語は、我々が実際には使用しないものも多いにも関わらず、その人物の個性として受け入れられている。この授業を通して、多彩な日本語に触れ、自分たちがどのようにそれらを使い分けているのか、楽しみながら考えてほしい。								
13. オフィスアワー	初回の講義で通知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション、「はじめに」社会言語学の面白さ	事前学習	社会言語学とは何か、考えてくる。						
		事後学習	教科書 pp. 3~17、目次に目を通しておく。						
第2回	第1章「社会言語学とは何か」	事前学習	教科書 pp. 27~45 を熟読しておく。						
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。						
第3回	第2章「地域に根ざした言葉」方言	事前学習	教科書 pp. 47~71 を熟読しておく。						
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。						
第4回	第3章「話し手に根ざした言葉」言葉とジェンダー、言葉と世代	事前学習	教科書 pp. 73~92 を熟読しておく。						
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。						
第5回	第3章「話し手に根ざした言葉」言葉と社会階層、役割語	事前学習	教科書 pp. 93~100 を熟読しておく。						
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。						
第6回	第4章「聞き手に合った言葉」親疎関係、アコモデーション理論、上下関係	事前学習	教科書 pp. 101~110 を熟読しておく。						
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。						
第7回	第4章「聞き手に合った言葉」敬語とポライトネス理論	事前学習	教科書 pp. 111~116 を熟読しておく。						
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。						
第8回	談話分析とその方法	事前学習	これまでの学習内容を参考に、興味のあるテーマについて考えてくる。						
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。研究テーマを特定し、研究計画を立てる。						
第9回	研究テーマと研究計画発表	事前学習	発表の準備をする。						
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。フィードバックを踏まえ、研究計画を修正する。						

			分析を開始する。
第10回	第5章「状況に合った言葉」	事前学習	教科書 pp. 117～132 を熟読しておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第11回	第6章「伝達方法に合った言葉」	事前学習	教科書 pp. 133～148 を熟読しておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第12回	第7章「日本語の人称表現」	事前学習	教科書 pp. 149～182 を熟読しておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第13回	第9章「言葉と文化」	事前学習	教科書 pp. 203～220 を熟読しておく。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第14回	プレゼンテーション：社会言語学的観点からの談話分析、質疑応答、コメント	事前学習	プレゼンテーションに向け、準備を行う。
		事後学習	授業の疑問点、感想・コメントを書く。
第15回	言語景観 これまでの内容の振り返り、レポートの準備	事前学習	身近な言語景観を観察してくる。教科書、学習内容を復習し、疑問点を明らかにしておく。レポートに向けて発表からの改善点・疑問点をまとめておく。
		事後学習	これまでの学習内容・フィードバックを踏まえ、レポート（社会言語学的観点からの談話分析。第14回の発表内容をまとめたもの）を作成する。